

音楽の持つ力、演奏の奥深さ 心をひとつに感動を生み出す

一部の優れた技量を持った部員が注目を集め、大多数の部員が控えやサポートに回ることの多い運動部とは異なり、吹奏楽部では部員全員がレギュラーメンバーです。部員一人一人が技術を磨き、心を通わせみんなで一つの音楽を作り上げるのが吹奏楽の魅力です。練習を積み重ねて作り上げた音楽に対し、客席から万雷の拍手をいただいた時の感動は何事にも代えがたい達成感を生み出します。高校の吹奏楽部との合同練習もあり、担当する楽器の演奏技術を高め、さまざまなジャンルの演奏にチャレンジすることで、音楽の持つ力に気づき、演奏の奥深さを感じていきましょう。



総監督の胸の内



「もうダメだ」から「まだダメだ」へ

部員が壁に突き当たった時、「やり直し!」と叱咤激励します。部員には「もうダメだ」ではなく、「まだダメだ」と思うようになってほしいと考えています。自分で限界を作ってしまうと、それ以上の成果は期待できません。とことん自分と向き合うことで、一人一人が大きな成長を遂げ、全体のステージが上がることで、さらなる高みへと進化するのです。各コンクールや演奏活動を通じて、中学校吹奏楽の最高峰を目指して、ともに音楽しましょう。

斉藤忠直 音楽総監督

金沢市出身。石川県立金沢泉丘高校、金大教育学部卒。県立金沢桜丘高校吹奏楽部で全日本吹奏楽コンクール銀賞受賞、県立小松明峰高校で県内高校初の金賞受賞。2010、11年も連続出場。17年春、金沢学院高校（現・金沢学院大学附属高校）着任。

チームポリシー

為せば成る
為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり



練習場所

金沢学院大学附属中学校
音楽室、多目的ホール

練習日程

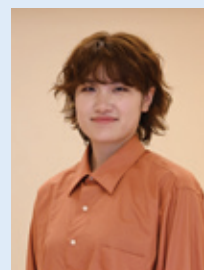
平日は授業終了後、2時間～3時間
土日は演奏会・コンクールシーズン
（主に6～9月）のみ活動。

ヒップホップとブレイクに挑戦 一人一人が輝く舞台づくり



金沢学院大学附属中学校のダンス部が2022年春、ヒップホップとブレイクの2チーム体制でスタートします。ヒップホップチームは、K-POPダンスやジャズダンスなど、幅広くストリートダンスを取り入れ、目標とするチームイメージは高校生の全国大会で連覇する大阪府立登美丘高校ダンス部もその一つ。一方、ブレイクチームは、体のあらゆるところを使って回ったり、跳ねたり、アクロバティックな動きを取り入れたブレイクダンスをメインにします。いずれも石川県内初の中学校ダンス部として、部員一人一人が輝ける舞台づくりを目指します。

監督の胸の内



小林愛海 監督
（ヒップホップ）

限界に挑戦する姿に人は感動

ダンスは観る人も楽しくなる半面、演じる人たちには厳しさが求められる文化スポーツといえます。人は限界に挑戦する姿に感動を覚えるものですし、極める技やチームワークには限界はありません。私は中学、高校時代、バントワリングを大阪の名門学園で打ち込み、5度、日本一に輝くことができました。そこに至る過程は、日本一を目標にした自分たち自身との戦いの連続でした。同時に、高校3年生の部長時代、同じ仲間を信じることの大切さを学びました。自分に厳しく、そして仲間を思いやる大切さを部活動を通じて伝えたいと思っています。

内灘町出身。大阪・PL学園中学校、同高校、桃山学院大学社会学部卒業。2020年4月から金沢学院大学職員。



草野真澄 監督
（ブレイク）

小さな成功体験を積み重ねて成長へ

ブレイクダンスは2024年のパリ五輪で新競技に追加されることが決まり、一層の進化が期待されています。そのブレイクダンスの研究に私は学生時代から取り組み、安全かつ効率よく難易度の高い技に成功する指導方法を考案。今はソロ活動の指導、プロダンサーの育成など人材育成の総合プロデューサーを担っており、本校ダンス部では、小さな成功体験を積み重ね、確実に成長へと導きます。

金沢市出身。大阪・PL学園中学校、同高校、金沢工業大学卒業。2004年にUK B-BOY CHAMPIONSHIP日本予選優勝、世界大会4位。12年AION Dance Academy、21年NPO法人日本ブレイクダンス青少年育成協会設立。毎年、多数のプロデュースチームが全国大会入賞。

チームポリシー

1. 素直に一生懸命
2. 感謝を忘れないこと
3. 周囲を笑顔にできる
応援される部に



練習場所

金沢学院大学幼児体育室
（壁面全面ミラー付き）、
校庭ピロティ。

練習日程

週3～4日、各日2時間半程度。大会、イベント前は回数、時間とも増えます。